



▲ 編集委員会メンバー（左から）小淵、小林、鈴木、島田、飯田、若菜、福地、北爪、植田

**あ**けましておめでとうございます。2010年となり、2000～2009年のいわゆるゼロ年代を超えてしまいました。昨年は大きな政権交代があり、宇宙基本法施行の効果がまだ見えないのですが、安全保障に関する衛星通信の重要性は益々高まっており、本年こそ発展する年になることを期待したいと思います。Space Japan Review も皆様のご協力により益々充実させていきたいと願っています。引き続きご支援をよろしくお願い致します。

編集顧問 飯田尚志

あけましておめでとうございます。

昨年は編集委員会に久々の新委員を JAXA とスカパーJSAT からお迎えすることができ、早速活発に活動頂いていることは喜ばしい限りです。ぜひ今年は衛星産業界から JFSC の活動に復帰頂いて、編集委員会の若返りを進め、我が国の次世代の衛星通信・衛星放送のあり方などを前向きに議論する場を広く提供できれば、と念じております。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

編集顧問 植田剛夫

新年明けましておめでとうございます。日頃 SJR のご愛読ありがとうございます。

昨年は、一昨年成立した宇宙基本法にもとつき、宇宙基本計画が纏められ9つの主要テーマと衛星開発利用等の現状・向こう10年程度の目標が示され宇宙政策の進展に期待が膨らみました。一方8月総選挙後に民主党による新政権が発足し日本国の政治政策に大きな政策転換が起こり宇宙政策に関しても例外なく事業見直しに晒され大きな方針変更を求められた開発事項も生じました。然し新政府は地球温暖化対策を政策の中核に据えるなど環境観測・自然環境の悪化の防止策などに宇宙技術開発が大きく貢献する事が期待されます。

鳩山政権も新政権発足時の蜜月時期を過ぎ本格的に経済政策に取り組まなければなら

ない時期に入りました、米国発の金融恐慌から始まった世界的レベルでの金融不安と経済的混乱からの回復も世界的レベルでは改善に向っているが日本は一步遅れているように見え、新政府による経済政策の強力な推進により本格的景気回復を期待しております。新政権が唱えているアジア太平洋地域共同体の推進でも、宇宙開発分野でアジアに於ける新興国を含めた地域レベルでの協力、融和と責任分担が生まれ発展することを期待致します。

WINDS の利用実験も順調に推進し、シンポジウムでもその成果が報告され、新たな高度衛星通信技術の開発の必要性が認められ推進されることが期待されています、今年の夏期には準天頂衛星1号機の打ち上げも予定されています、打ち上げ成功のみならずその後の軌道上性能確認、更に実用計画まで順調に発展することを心より願っております、DRTS を含めた衛星通信技術の貢献が多いに期待されることは言を待ちません。最期に日本の宇宙飛行士の宇宙長期滞在のニュースに刺激され宇宙に対する国民的感心が高まり、国民の宇宙への関心を沸き立たせる好機になると期待しています。

今年も SJR をご愛顧頂きますようお願い致します。

**編集顧問:北爪 進**

編集委員に就任してからおよそ半年が経過しました。毎月の編集会議で報告される Space Japan Review のアクセス数に一喜一憂するとともに、本誌に対する編集委員の思い入れ、積極さには、ただただ圧倒させられるばかりでした。今年から読者の皆様との双方向リンクがもっと強固なものになるよう、「宇宙通信相談室」コーナーも企画されます。アクセス数がもっと増えるよう努力してまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

**編集委員 島田 政明**

2009 年はバブル崩壊後最安値を記録するなど、経済環境は非常に厳しい年でした。一方で、宇宙政策全般に亘る国家戦略である宇宙基本計画が策定され、2010 年は本戦略実行元年として、明るい将来展望へ向けての重要な年と認識しております。

安心・安全を支える重要インフラでもある衛星を、より身近に感じて頂けるよう読者目線での記事編集を心がけていきたいと思ひます。関係各位のご協力引き続きよろしくお願い致します。

**編集委員 小林 勇**

あけましておめでとうございます。

本来の職務が、ながらく宇宙関連分野から離れていましたが、昨年中旬より戻ってまいりました。国際会議等へ出席する機会も増えると思ひますので、最新情報や宇宙分野で活躍する方々を取材して、より充実した誌面にしていきます。ウェブページは一月に500アクセス程度ありますが、広報活動を強化して2倍の1,000アクセスを今年の目標とします。また2011年は米国航空宇宙学会(AIAA)の ICSSC 国際会議を日本で開催することになっています。開催に向けて様々な情報発信を心がけていきたいと思ひます。

今年も Space Japan Review 誌を引き続きご支援お願いいたします。

**編集委員長 若菜弘充**